

日本人の生活に 密着した「桐」

昔は、女の子が生まれると家の敷地に桐を植え、その桐を使って嫁入り道具をあつらえるという風習があるくらい全国的に分布していました。

着物や掛け軸等、大事なものの貴重なものは「桐の箱」に大切に保管されてきました。日本の風土に合った日用品として永い間使われてきました。

桐材は、日本でもっとも軽い材質を持つとともに、比重が小さいため音響交換効率がよく、「会津の桐」が楽器「琴」の素材に最適と現在でも言われております。

【桐の主な特性】

調湿性・軽量・強さ・燃えにくい・断熱性・加工しやすさ・優雅な材質…等々



会津の桐は日本一 ～伝統美へのこだわり～

時代の流れとともに、日本の生活様式の変化や外国産の輸入により、国内の桐生産量は、昭和30年代から減少してきました。

会津の桐も山奥まで行かないと、良質材が無くなってきました。しかし、国内の桐生産量3割を占める会津は、品質・生産量とも日本一です。当店がこだわり続けているのは、この日本一の会津の桐で作る下駄です。「下駄」は、時代とともに靴・サンダルにとって代わられてきましたが、日本を代表する桐製品を守り続けていきたい一心で作ってきました。



日本の気候に合う履物 ～心地よい裸足の感触～

昔、日本の履物として、ワラジ・ゾウリ・下駄等、多くが鼻緒のついた履物ばかりでした。靴が主流になった時代、鼻緒のある履物は少なくなっています。足の裏はもう一つの心臓とも言われるくらい、健康に影響すると言われていますが、足の指についても鼻緒のある下駄だと足・ふくらはぎ・太もも・足腰を鍛え、更には、二本の指で鼻緒を挟み込む動作は、末梢神経を刺激し、それによって脳を活性化させることにもなります。

湿度の高い日本では、裸足で履ける履物が重宝されます。軽くて健康に良い履物が、「桐下駄」だと思うのです。



会津の桐下駄を全国に… ～明治から続く4代目桐職人～

30年～40年前までは、会津に多くの桐材屋さんもあり、下駄屋さんもありました。時代の波とともに、数少なくなってきましたが、需要は今もあり、会津の桐下駄がすたれることは絶対ありません。

当業界も風評被害の影響を受けていますが、「いいものはいい」と言い切れる会津の絶品だからこそ、全国にもっと知って欲しいと思うのです。日本の伝統文化は、決して消えていくものではありません。永い永い生活習慣から生まれ出た最良・最適なもののばかりです。使ってみませんか、日本の伝統工芸品を…